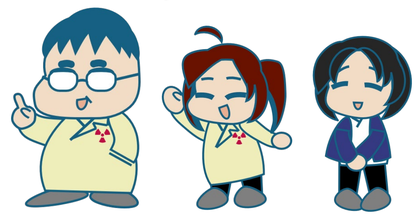
放射線とトリチウムの習熟を基盤とした原子力規制人材育成

茨城大学　説明者氏名　**鳥養　祐二**
ポスター作成　**小畑　結衣**



1. 教育プログラム概要

本事業開始以前…茨城大学で「原子力規制」を正しく理解している学生は0%であった

茨城大学を中核として、日本原子力機構（JAEA）・公益環境科学技術研究所（IES）等の関係機関と連携し、**放射線およびトリチウムに関する専門知識を有する原子力規制人材**を育成する教育プログラムである。

①～③の人材像に応じて、放射線・原子力・トリチウムに関する講義・実習・施設見学を組み合わせた実践的な教育を提供する。

① 放射線・トリチウムの専門知識を有し、規制判断を支えることのできる **高度専門人材**
② 実務に対応可能な専門知識を備えた **専門人材**
③ 教育の場でトリチウムを適切に説明できる **教育人材**



これにより、規制に必要な科学的理解と実務感覚を併せ持つ人材の育成を図る。
今後の**原子科学の発展**（原子力や核融合）における**規制・安全評価を担う高度専門人材**と、それを支える**関連人材を継続的に輩出**し、**原子力規制基盤の強化に貢献する**。

2. 取組事例

原子力規制を学ぶ3つのステップ

1. 原子力規制概論【講義で知る】
原子力規制庁の職員を講師に迎え、
原子力規制の**歴史や役割、業務**について学ぶ



2. 原子力規制庁見学【仕事を知る】
原子力規制庁を訪問し、規制行政の
実際の業務に見て触れ、将来の**進路を考えるきっかけ**とする





3. 原子力規制事務所見学【現場で学ぶ】
原子力規制事務所を訪問し、**現場における原子力規制の役割**や業務への理解を深める。

その他の人材育成の取り組み

4. 原子力施設見学
福島第一原子力発電所などを訪問し、
事故の影響や廃炉・復興への取り組みを学ぶ

5. 環境放射能測定実習
IESにて、環境サンプリングや環境
放射能の測定方法を実践的に学ぶ



6. 放射線取扱主任者試験への支援
受験にかかる旅費を支援し、
放射線に関する専門知識の習得を後押し



7. 連携機関の実習への参加支援
JAEAが開催する「RI・放射線技術者養成コース」
等放射線について学ぶ実習の参加を支援



8. 他大学との連携
静岡大学と合同で、女川・六ヶ所の原子力規制事務所を実施、
規制と事業者双方の取り組みについて学ぶ

3. 事業成果、効果等

人材	各年度に育成する人数					合計
	令和5	令和6	令和7	令和8※	令和9※	
高度専門人材	3	17	25	(3)	(3)	約51名
専門人材	15	10	25	(15)	(15)	約80名
教育人材	450	251	558	(400)	(400)	約2,000名
合計	468	278	608	(418)	(418)	2,131名

※（）内は令和6年度に提出した事業計画書申請時の予定人数

入庁者	ー	1	1	2(現時点)	若干名

原子力規制庁への入庁者を継続的に輩出
令和6年度・7年度に**各1名**が原子力規制庁へ入庁し、
令和8年度も新たに**2名**の入庁が見込まれている。
原子力規制を担う**人材の育成が、着実に進んでいる**。

原子力関連分野への就職を後押し
令和6年度に発足した茨城大学原子科学研究教育センター（**RECAS**）との連携を通じて、原子力分野への就職支援を推進！
原子力関連企業への就職者数は、従来の約50名/年➡128名へ増加
（2026年4月1日）

【参加した学生の感想一例】
- これまで知識として学んできた内容をより身近に感じることができた。現場で働く人々の取り組みや安全への配慮を知り、原子力や放射線についての理解が深まった。
- 原子力施設で事故やトラブルが発生した際に、関係機関と連携し、情報収集・分析・対応方針の策定・国民への情報発信を行うERCの役割を実際に見て知ることができた。

4. 今後の展開

- 令和8年度：12/17に原子力規制庁本庁への学生訪問を予定（約20名）、12月・1月に福島第一原子力発電所見学（約60名）、3月に他事業とのコラボ（泊原発見学約15名）を予定
- 「原子力規制概論」や「原子力規制庁への見学」などは、本事業終了後も**続ける予定**である
- 本事業で得られたノウハウを**次の世代に引き継ぐ**人材育成を行う

※本事業は、原子力規制庁・令和８年度原子力規制人材育成等推進事業費補助金（原子力規制人材育成事業）の補助を受けたものである。